

# 東方文化事業“上海自然科学研究所”の 漢方生薬研究

——中尾萬三蒐集・満洲生薬標本——

伊藤 謙

## 1. はじめに

中華人民共和国では、1965-1977年にかけて発生したプロレタリア文化大革命（無産階級文化大革命）により、多くの研究者や知識人の排斥、そして多くの文物や研究資料が破壊・廃棄されてきた歴史をもつ。この革命を推し進めた毛沢東（1983-1976）は、医療・衛生活動についても言及しており、「医療・衛生活動の重点を農村におこう」と呼びかけた<sup>(1)</sup>。これにより、“裸足の医者”と呼ばれる正式な医療教育を受けておらず、“半農半医”の状態にある農村の医療従事者も出現した。この経緯を踏まえると、現在“伝統中国医学”として伝わる中国伝統医療における生薬類の基原や名称は、プロレタリア文化大革命の前後で変化している部分が存在すると予想される。

京都薬科大学は、ドイツ人であるヘニング・ルドルフ・フェルディナント・レーマン（Henning Rudolph Ferdinand Lehmann, 1824-1914）に学んだ人々が、1884年に設立した京都私立独逸学校に端を発する<sup>(2)</sup>。日本で2番目に古い歴史を有する私立薬系大学であり、歴史的な生薬標本を多数所蔵している。筆者はその生薬標本群の全容を把握する目的で、整理・調査を行う過程において、中尾萬三寄贈の「満洲市場品」と記載される一連の生薬標本群を発見したので、その概要と意義について述べる。

## 2. 生薬標本の寄贈者・中尾萬三と上海自然科学研究所

この生薬標本を寄贈した中尾萬三（1882-1936）は、明治-昭和時代前期の薬学者であった（写真1）。京都出身で、東京帝国大学を卒業後、明治41年に満鉄中央試験場技師となり、昭和5年に上海自然科学研究所漢薬部長となった<sup>(3)</sup>。和漢薬の成分研究を主に行っていたが、中国古陶磁の科学的研究でも知られていた。中国陶器の研究では、小森忍（1889-1962）との共同研究により、支那陶磁源流考を著している<sup>(4)</sup>。小森は、京都市立陶磁試験所において民藝運動の旗手となる河合寛治郎（1890-1966）や浜田庄司（1894-1978）ら後進に、自らの研究成果である科学的な釉薬調合を伝え、近代日本の陶芸界に新たな流れを形成することとなる。また中尾の支援を受け、大連甸雅堂窯（1921-1927）を開設している<sup>(5)</sup>。

中尾の所属していた上海自然科学研究所は、日本政府が1923年3月に制定公布した「対支文化事業特別会計法」に基づいて実施されていた中国での文化支援事業である「東方文化事業」の一環として設立された<sup>(6)</sup>。東方文化事業とは、中国で列強排斥運動が高揚した背景から、1923年に義和団事件の賠償金を基金に外務省管轄の事業としてスタートしたものである。その中心になったのは北京人文科学研究所、上海自然科学研究所と、のちに日本に設置された東方文化学院（東京および京都に設立）などの学術研究機関の運営である。

自然科学に関する研究機関として設立された上海自然科学研究所は、1931年4月から1945年9月にかけて活動した。研究対象として広く自然科学全般を網羅するこの科学研究機関は、「自然科学の純粋学理を研究するを以て目的」として設立され、また中国人の「高遠なる自然科学研究の能力を増進することに注意し、以てシナの自然科学の発達を図る」ことを主眼としていた<sup>(7)</sup>。設立当初、研究員が40名、内訳は日本人33名、中国人7名であった。しかし

1928年、済南事件および蒋介石（1887-1975）の国民政府樹立により、東方文化事業総委員会の中国側の委員が抗議の辞職を行なったため、実質的に日本の単独事業と化した<sup>(8)</sup>。同研究所の組織大綱の規定において、所長は中国人をもってあてるとされていたため、これを空席とし、東京大学医学部名誉教授であった横手千代之助（1871-1941）が初代研究所長署理に就任した。

中尾はこの研究所に当初、研究所嘱託として着任している。その後、中尾が主任研究員であったとき、第一次上海事変（1932年）が発生した際には、不在であった横手所長署理にかわって研究所の指揮を執っている<sup>(9)</sup>。1932年の離任にあたり、中尾は東方文化事業着手当初の理想であった日中共同経営・日中共同研究の基本方針を掲げ、その復元を目指すよう文化事業部長に意見書として提出している。

その後、新城新蔵（1873 - 1938、京都帝国大学第八代目総長）が1935年に研究所長に就任した。中国文化にも造詣の深い新城は、中尾の打ちだした基本方針を踏まえ、中国側の研究者の協力を得ることに成功するとともに、研究所の事業展開を多方面にわたって展開させ、同研究所の黄金時代を築いた。

しかし、1937年日中戦争勃発と1938年の新城の急死を境に、同研究所は日本の国策機関と化していった。そして、1945年8月の日本の降伏により終焉を迎えた。この研究所は国民政府に接収されて中央研究所の研究機関の一部に編入された。その後、研究所の建物は、中華人民共和国に引き継がれ、中国科学院の薬学研究所および生理学研究所として使用されてきた<sup>(10)</sup>。

いっぽう北京人文科学研究所は1927年（昭和2年）10月に発足した。主な事業は清の第6代皇帝乾隆帝（1711-1799）の編纂した“四庫全書総目提要”を補う『統修四庫全書提要』の編纂であり、そのため四庫全書から漏れた多くの古書籍を蒐集し、書目を選定したが完成を見なかった。日本の敗戦後、蔵書のすべては中華民国政府に接収され、現在では中国科学院の所有となっている<sup>(9)</sup>。

なお、東方文化学院は、済南事件を機に1929年（昭和4年）4月、外務省

管轄の東方文化事業により発足し、東京・京都の2ヵ所に研究所を設置した。学院は日本における東洋学・中国学専門の研究拠点となり、多くの研究者を育てた。しかし東西の研究所で齟齬が生じ、1938年両者は東京の東方文化学院と京都の東方文化研究所として分離独立した。前者は東京大学東洋文化研究所、後者は京都大学人文科学研究所に繋がっているとされている<sup>(9)</sup>。

### 3. 中尾萬三蒐集・満洲生薬標本の概要と基原同定

本論文で扱う生薬標本群は、京都薬科大学生薬学分野にて保管されてきた。現在は同大学本校地内、育心館1階の標本室で保管されている。この標本群は、同大学の生薬学教室が保管する生薬標本群の中に混在して保管されてきたものであり、そのため中尾萬三蒐集・満洲生薬標本に附記されている標本番号に連続性はない。筆者らは、中尾萬三蒐集・満洲生薬標本にのみ見られる特徴的なラベルを基に、生薬標本群の中より、該当する標本を選出した。

前述のように、これらの生薬標本群は、収蔵時に統一の様式で作成されたと考えられるラベルが各標本に付与されており、中尾萬三寄贈および1913年（大正14年）の中国・満洲市場品であることが明記されている。京都薬科大学生薬標本室において、これに該当する305点の標本を確認した。標本はガラスの容器に収められ密封が施されている。大部分の標本は、ガラス容器（直径5cm、高さ10cm）に保管されている。なお大型の標本については、内容物にあわせたサイズのガラス容器が使用されている。

また、これらの標本の写真撮影を行い、写真2に生薬標本の典型例を示している。表1に示したように、筆者は、標本ラベルに記載された「記載名」、京都薬科大学の生薬学教室により附記された「標本番号」、専門家による目視観察および中薬の専門書「中薬大辞典」の検索により<sup>(11)</sup>、植物体の基原部位、推定基原植物（学名）、推定基原植物（和名）を記載した（表1）。なお本標本

群は、貴重な歴史的標本のため目視のみの調査となった。そのため、同定のできない標本が存在した。植物体の基原部位が同定できなかった標本には「※」、基原植物（学名）が同定できなかった標本には「※※」、推定基原植物（和名）が不詳の標本には「※※※」を表中に記載している。なお、基原植物（和名）が不詳な標本の一部は、属名までの学名を記載した。

#### 4. 中尾萬三蒐集・満洲生薬標本の薬史学および生薬学的考察

中尾は、自らが漢薬部長を務めた上海自然科学研究所において、漢薬写真集成1（1929年11月発行）および2（1930年10月発行）を木村康一（1901-1989、後の京都大学教授、医学部薬学科生薬学講座担任）との共著でまとめている<sup>(12,13)</sup>。この中には1および2をあわせて99種類の生薬が掲載されている。この第1報の緒言において中尾は以下のように記している（原文は旧仮名遣いのため現代語訳とした）。

「前略／我が国の徳川期の本草学者は大変な努力をして、漢薬の基原を明らかにすることに努め、これにより解明された事柄は多くあったのであるが、当時の鎖国の情勢下ではその基原探索は困難なものであり、加えて当時の学者達は中国に於ける産地情報を軽視する傾向にあったため十分な成果を挙げることはできなかった。一方、西洋の学者たちは本草学の研究を行うものも現れ、自ら採集を行う人物もいたが、我が国の学者の研究を追随する傾向にあり、漢薬には南北の（地域）差があることから研究結果に確実性は乏しかった。そして、江戸期の本草研究隆盛の時代以降、我が国の漢薬の研究は少なく、現在の中国の政情不安により、中国内を旅することは困難な状況であり、清の前期のように生薬研究を行うことは難しい。私（中尾萬三）は、満洲において漢薬500種類以上を蒐集し、その多くを

今井冷君に託して写真撮影を行い、これらに関しての文献として発表することを計画してきた。/ 後略]

中尾は以上のように記しており、本標本群は漢薬写真集成のために満洲で蒐集された生薬標本の一部である可能性が見て取れる。

本標本群は、305点の標本から構成されており、中尾の記述の約6割の標本が含まれている。なお、漢薬写真集成1および2において生薬類の基原部位は下記の6種に大別されている。すなわち、①隠花植物(11種)、②茎・葉・幹皮類(0種)、③根類・根菜類・根皮類(35種)、④花類(0種)、⑤果実・種子類(14種)、⑥全草類(2種)である。

この分類に倣い、京都薬科大学において発見した中尾萬三蒐集満洲標本(以下、中尾標本と略称)305点を分類すると下記ようになる。①隠花植物(5種)、②茎・葉・幹皮類(86種)、③根類・根菜類・根皮類(78種)、④花類(28種)、⑤果実・種子類(115種)、⑥全草類(49種)である。なお、1～6のいずれにも属さない標本は7種存在した。本標本群は、1913年(大正14年)の蒐集と記載されており、漢薬写真集成1(1929年11月発行)および2(1930年10月発行)の発行年を遡る。

中尾標本群と漢薬写真集成1および2を比較すると両者には一致しないものが多数ある。隠花植物は標本では全体の1%に過ぎないが漢薬写真集成では18%を占め、根類・根菜類・根皮類は標本では全体の21%となっているが漢薬写真集成では56%を占めている。これは当時の使用頻度の高さや重要性を示している可能性が考えられる。他の漢薬に関しては続編での掲載を考えていた可能性もあるが、重要性の高い漢薬から掲載を行った可能性は高いと推測される。すなわち、中尾は漢薬写真集成1および2を発行するにあたり、自らの蒐集した標本の中から、優先順位の高い、もしくは特筆すべきものを図版および解説を入れて出版したと考えられる。

中尾標本群中で、漢薬写真集成1および2に掲載された標本は77点(63種)ある。中尾が自ら蒐集した標本から漢薬写真集成を執筆したことを考慮すると、残りの36種の標本については、京都薬科大学で保管される過程で失われたか、もしくは他の場所に保管された可能性が考えられる。しかし自らの蒐集標本の6割以上に上る300点以上もの生薬標本を寄贈するにあたり、漢薬写真集成で紹介するほど重要な位置を占める漢薬類を省いたとは考え難く、前者の理由が可能性として高いと予想される。

## 5. 中尾萬三蒐集・満洲生薬標本の現代における基原分類

戦前の漢薬の分類に比して、現在の分類は細かくなっている。当然ながら前節の中尾の分類は、当時のものに従っているが、以下では現在用いられる方法で分類を行った。

維管束植物およびその加工品を用いた標本が98%に上り、本標本群が生薬の中でも植物に重点をおいて蒐集されたものであることがわかる。植物を用いた標本群の内訳として、全体を用いた標本(全草 Herba)が14%、地上部を用いた標本(地上部 Herba, 樹皮 Cortex, 茎枝 Caulis, 葉 Folium を用いるものの合計)が8%、地下部を用いた標本(根 Radix, 根皮 Cortex, 根茎 Rhizoma, 鱗茎 Bulbus, 塊茎 Tuber を用いるものの合計)が21%、果実部位を用いた標本(果実 Fructus, 果皮 Pericarpium を用いるものの合計)が19%、花部を用いた標本(花部 Flos, Spica)が8%、種子を用いた標本(種子 Semen)が14%、そして樹脂、加工品が各1%であった。

加工品である標本群の中にある豆豉(トウチ)は、ダイズの種子を蒸し発酵させた後、乾燥した生薬であり、消炎性健胃、鎮静、発汗などの作用があるとされている。植物以外には、菌核および動物由来の生薬がそれぞれ3点と2点、蒐集されていた。前者には、雷丸菌(*Omphalia lapidescens*)由来の雷丸(ラ

イガン)、マツホド菌 (*Poria cocos*) 由来の伏神 (方茯, 皮茯), チョレイマイタケ (*Polyporus umbellatus*) 由来の猪苓 (チョレイ) が存在した。後者には, キョクトウサソリ (*Isometrus maculatus*) 由来の全蠍 (ゼンカツ) および淡水海綿 (*Spongilla fragilis* or *Ephydatia muelleri*) を由来とする紫梢花 (シショウカ) が存在した。その他に分類される生薬としては, マコンブ (*Laminaria japonica*) 由来の葉状体由来の昆布, シダ植物であるカニクサ (*Lygodium japonicum*) の孢子由来の海金砂の2点が存在した。

## 6. 生薬標本の史的意義

我が国の伝統医学である日本漢方そして現代の中医学において最も大切なものは、漢方処方構成する「生薬」であり、それらの基原は生薬の効果を左右する最も重要な部分である。しかし異物同名の生薬も少なからず存在するため、生薬の基原動植物は時代の変遷や地域差により異なっている例は多い。よって、文書などに残されている生薬名のみで基原植物を判断することは非常に危険である。

しかし一方で、歴史的な生薬標本が実物の形をとどめて、長く後世に伝えられたものは少ない。その理由として、植物や動物由来の生薬類は虫害などにより損傷しやすいこと、生薬は元来治療に供するために使用 (消耗) されることから、標本として残されるケースが少なかったことが挙げられる。長く伝来した生薬標本の代表的な例として、正倉院御物の中に存在する正倉院薬物、大阪大学の所蔵する緒方洪庵の薬箱がある<sup>(14, 15)</sup>。

前者は、天平勝宝8年(756年)、聖武天皇が崩御した後に、光明皇后が天皇遺愛の品々と共に献納したものである。献納された生薬のリストは「東大寺献物帳」のなかの一巻である「種々薬帳」に、献納した60種類の薬物名と、それら各々の数量および質量などが列記されている。しかし、その後、経年劣



化や使用による消耗等で現存するものは38種となっている。

また後者は、江戸幕末期の大坂に適塾を開設し、蘭学の第一人者・蘭方医として貢献した人物である緒方洪庵（1810-1863）が、往診時に使用したとされる薬箱であり、70包におよぶ薬袋の多くにおいて生薬が残存していることがわかっている。以上のような数少ないケースでは、これらは遺品という形で偶然の産物として残った生薬標本であり、本研究で対象とした中尾標本は、意図的に「科学的資料」として後世に伝える目的で標本として保管したという点で大きく性質が異なる。

言うまでもなく、中尾標本は、満洲市場品、すなわち当時の満洲において販売されていた生薬の現物標本を中尾が研究に資するために蒐集したものである。そして、中尾は上海自然科学研究所漢薬部長という中国大陆における生薬研究において最も軸要な地位にいた人物であった。すなわち、本標本群は、当時の第一級の研究者が鑑定した学術的裏づけのある標本であるだけでなく、科学的分析に資する目的で、当時の生薬市場を正確に反映する意図を持ち、網羅的に収集された標本群という点で大きな意味を持つことがわかる。

前述のとおり、中華人民共和国では、プロレタリア文化大革命により、多くの研究者や知識人の排斥、そして多くの文物や研究資料が破壊されてきた歴史があり、医療界も例外ではなかった。すなわち、今後の研究課題ではあるが、現在“伝統中国医学”として伝わる中国伝統医療における生薬類の基原や名称は、プロレタリア文化大革命の前後で変化している可能性が高い。本資料は、プロレタリア文化大革命前の中国圏生薬の典型例を今に伝える貴重な資料と見え、プロレタリア文化大革命により失われた生薬類の基原探索において、重要な意味をもつと予想される。以上により、本標本群の詳細な研究は、プロレタリア文化大革命以前の中国医学において使用されていた生薬の基原について、実物標本をベースとするスタンダードを確立する標準となり得ることが示唆された。

## 7. まとめ

1913年（大正14年）に満洲にて蒐集され、中尾萬三により京都薬学専門学校（現京都薬科大学）に寄贈された標本群を資料調査の過程で見いだした。305点の標本の存在を確認し、それらの基原を推定した。本研究により、戦前の満洲市場の生薬の基原および使用状況が明らかとなった。

現在中医学として伝わる中国伝統医療における生薬類の基原や名称は、プロレタリア文化大革命の前後で変化している部分が存在すると予想される。また、昨今、中華人民共和国の伝統医学は「中医学」として、ISO/TC249と呼ばれる中国伝統医学の国際標準化の中核としての位置づけが進行中である<sup>(16)</sup>。すなわち、国家主導により体系化されることで、生薬使用や名称の地域差などが消失し、均質化しつつある。加えて、中華人民共和国の薬局方といえる中華人民共和国薬典に掲載されていない生薬や使用頻度の低い生薬については、伝統的な知識の風化が著しく、基原が曖昧になってきているものも少なくない。

中尾標本群はプロレタリア文化大革命前の中国圏生薬の典型例を実物として、今に伝える貴重な資料といえ、プロレタリア文化大革命およびその後の生薬利用の均質化により失われた基原の差異および流通状況の地域差における重要な物的証拠として活用できる可能性がある。本論文で示した京都薬科大学の所蔵する歴史的な生薬標本についての詳細な研究は、当時の生薬基原を知りうるだけでなく、歴史文化資料としての価値をも伴う、過去の生薬市場情報を得る有用な指標とすることが期待される。

## 謝辞

本研究遂行に当たり、終始ご助力を頂いた武田禮二先生（京都薬科大学理事長）および乾賢一先生（京都薬科大学元学長）、松田久司先生（京都薬科大学

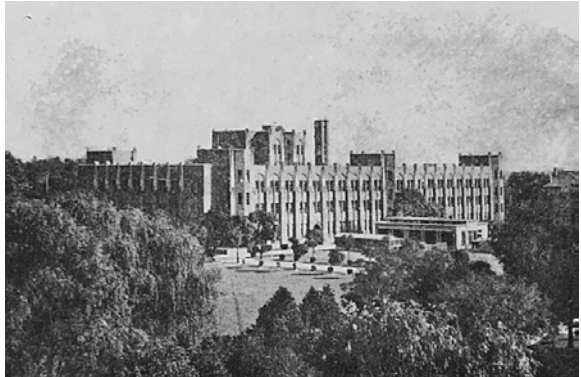
教授)に深謝いたします。プロレタリア文化大革命前後の中華人民共和国の状況に関しては、安富歩先生(東京大学東洋文化研究所教授)および深尾葉子先生(大阪大学経済学研究科准教授)に示唆に富むご助言を頂きました。加えて、東京大学東洋文化研究所の方々には意義ある参考意見を頂きました。なお、生薬の基原同定には、甄立学先生(倉敷平成病院)および吉本悟先生(薬王堂漢方薬局)にご助力を頂きました。ここに深謝申し上げます。文献検索および標本整理にご協力を頂いた、渡辺克典氏(大阪大学総合学術博物館/きしわだ自然資料館)、伊藤茜氏(大阪大学経済学研究科)に感謝いたします。

- 1 矢吹晋『文化大革命』(講談社, 1989)
- 2 京都薬科大学『京都薬科大学創立130周年記念誌』(京都薬科大学, 2014)
- 3 中野卓・鈴木郁生『中国古陶磁と本草学の先駆者 中尾万三伝』(刀水書房, 1999)
- 4 中尾萬三『支那陶磁源流圖考』(旬雅会, 1922)
- 5 盛岡通『陶磁デザインの前駆者である小森忍の誕生百二十年を祝す』(日本陶磁器産業振興協会, 2009)
- 6 山根幸夫『上海自然科学研究所について:対華文化事業の一考察』(東京女子大学紀要論集 30 (1), 1-38, 1979-09-20)
- 7 八耳俊文『上海自然科学研究所化学科の人々の戦後)アジアの自然と文化』(青山学院女子短期大学総合文化研究所年報) 16), 19-40, 2008-12)
- 8 山根幸夫『東方文化事業の歴史:昭和前期における日中文化交流』(汲古書院, 2005)
- 9 阿部洋『「対支文化事業」の研究:戦前期日中文化交流の展開と挫折』(汲古叢書, 2004)
- 10 佐伯修『上海自然科学研究所:科学者たちの日中戦争』(宝島社, 1995)
- 11 上海科学技術出版社編集『中薬大辞典』(小学館, 1985)
- 12 中尾万三・木村康一『漢薬写真集成 1』(東方文化事業上海委員会・上海自然科学研究所, 1929)
- 13 中尾万三・木村康一『漢薬写真集成 2』(東方文化事業上海委員会・上海自然科学研究所, 1930)

- 14 柴田丞二『正倉院薬物第二次調査報告』（正倉院紀要，1998）
- 15 高橋京子，島田佳代子，中村勇斗，近藤小百合，小栗一輝，吉川文音，東由子，善利佑記，須磨一夫，伊藤謙，大橋哲郎『『緒方洪庵の薬箱（大阪大所蔵）』に収納された生薬資料 現況の可視化』（薬史学雑誌，2013）
- 16 袴塚高志『生薬資源確保の現状と国際標準化の展望 ISO/TC249 における生薬及び関連製剤の国際標準化の動向（会議録）』（日本生薬学会年会講演要旨集，2013）



a



b

写真1 中尾萬三および上海自然科学研究所

(a) 中尾萬三（『大乘』No. 187 中尾萬三博士追悼号），(b) 上海自然科学研究所本館（上海自然科学研究所10周年記念誌）



写真2 京都薬科大学所蔵 中尾萬三寄贈標本の概要

最も多いサイズの薬瓶の典型例（直径5 cm、高さ7 cm）：(a) 標本名「木通」の記載面、(b) 標本の由緒書き記載面、(c) 由緒書きの拡大面、(d) 内容物の詳細写真、大きいサイズの薬瓶の例1（直径6 cm、高さ18 cm）：(e) 標本名「茜草」の記載面、(f) 内容物の写真、大きいサイズの薬瓶の例2：(g) 標本名「洋草」の記載面、(h) 内容物の写真

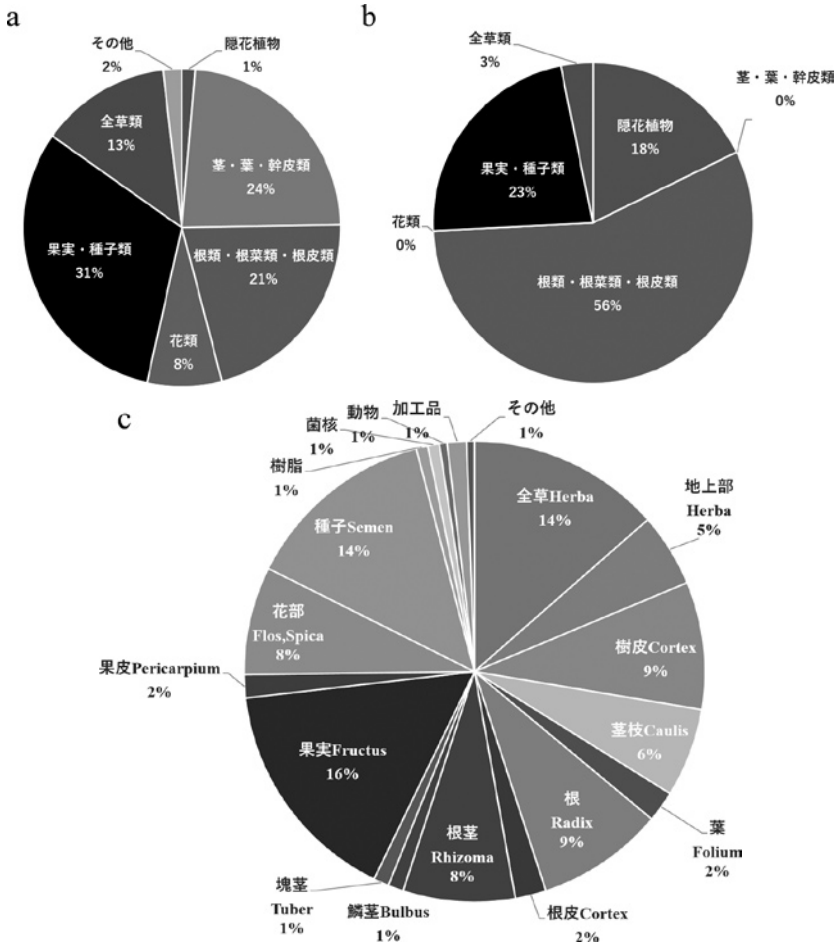


図1 基原部位による標本の分類

京都薬科大学所蔵中尾萬三寄贈標本(305点)、漢薬写真集成1および2に掲載されている生薬(99点)を、中尾萬三氏が行った分類に準拠して基原部位で分け、総数を100%として表示した。前者を図1-a、後者を図1-bにあらわした。京都薬科大学所蔵中尾萬三寄贈標本(305点)を、現代において用いられる分類に準拠して基原部位で分け、総数を100%として表示した(図1-c)。基原部位の分類は以下の通りである。全草Herba、地上部Herba、樹皮Cortex、茎枝Caulis、葉Folium、根Radix、根皮Cortex、根莖Rhizoma、鱗莖Bulbus、塊茎Tuber、果実Fructus、果皮Pericarpium、花部Flos, Spica、種子Semen、菌核、動物、加工品。

表1 京都薬科大学所蔵中尾萬三寄贈標本の全リスト

標本ラベルに記載された「記載名」、京都薬科大学の生薬学教室により附記された「標本番号」、専門家の目視による観察および中薬の専門書「中薬大辞典」での検索により、植物体の基原部位、推定基原植物（学名）、推定基原植物（和名）を記載した。基原部位が同定できなかった標本には「※」、基原植物（学名）が同定できなかった標本には「※※」、推定基原植物（和名）が不詳の標本には「※※※」を表中に記載している。なお、基原植物（和名）が不詳な標本の一部は、属名までの学名を記載した。

記載名	標本番号	植物体の基原部位	推定基原植物 (学名)	推定基原植物 (和名)
柯瓜子	2	種子 (Semen)	※※	※※※
頂叩仁	25	種子 (Semen)	<i>Elettaria cardamomum</i>	カルダモン
蒼耳	40	果実 (Fructus)	<i>Xanthium strumarium</i>	オナモミ
蔓荆子	78	果実 (Fructus)	<i>Vitex rotundifolia</i>	ハマゴウ
凌霄花	91	花部 (Flos, Spica)	<i>Campsis grandiflora</i>	ノウゼンカズラ
蕤仁	101	種子 (Semen)	<i>Prinsepia uniflora</i>	ヘンカクボク
皂子	103	果実 (Fructus) ?	※※	※※※
青果	104	果実 (Fructus) ?	※※	※※※
刀豆	105	種子 (Semen)	<i>Canavalia gladiata</i>	ナタマメ
天師粟	216	種子 (Semen)	<i>Aesculus wilsonii</i>	トチノキ科
黒大豆	238	種子 (Semen)	<i>Glycine max</i>	ダイズ
白果	250	種子 (Semen)	<i>Ginkgo biloba</i>	イチョウ
玉瓜呂	268	※	※※	※※※
川芎	302	根茎 (Rhizoma)	<i>Cnidium officinale</i>	センキュウ
赤升麻	305	根茎 (Rhizoma)	<i>Astilbe thunbergii</i>	トリアシショウマ
附子	392	根 (Radix)	<i>Aconitum carmichaeli</i>	ハナトリカブト
草烏頭	394	根 (Radix)	<i>Aconitum carmichaeli</i>	ハナトリカブト
白糸	928	※	※※	※※※
茅根	944	根茎 (Rhizoma)	<i>Imperata cylindrica</i> var. <i>Major</i>	チガヤ
於朮	964	根茎 (Rhizoma)	<i>Atractylodes macrocephala</i>	オオバナオケラ
芥子	989	種子 (Semen)	<i>Brassica alba</i>	シロガラシ
茴香	991	果実 (Fructus)	<i>Foeniculum vulgare</i>	ウイキョウ
酸棗	996	種子 (Semen)	<i>Ziziphus jujuba</i>	サネブトナツメ
青箱子	999	種子 (Semen)	<i>Celosia argentea</i>	ノゲイトウ
橘核	1025	種子 (Semen)	<i>Citrus reticulata</i>	マンダリンオレンジ
枳實	1105	果実 (Fructus)	<i>Citrus aurantium</i>	ダイダイ
紅橘	1108	果皮 (Pericarpium)	<i>Citrus reticulata</i>	マンダリンオレンジ

呉茱萸	1112	果実 (Fructus)	<i>Euodia officinalis</i>	ホンゴシユユ
廣皮	1115	果皮 (Pericarpium)	<i>Citrus reticulata</i>	マンダリンオレンジ
唐呉茱萸	1120	果実 (Fructus)	<i>Euodia rutaecarpa</i> or <i>E. officinalis</i>	ニセゴシユユ・ホンゴシユユ
塩青青皮	1141	果実 (Fructus)	<i>Citrus tangerina</i>	オオベニミカン
川楝子	1154	果実 (Fructus)	<i>Melia toosendan</i>	トウセンダン
大海子	1161	種子 (Semen)	<i>Sterculia scaphigera</i>	ハントイカイ
決明子	1168	種子 (Semen)	<i>Cassia tora</i>	エビスグサ
耳環解	1171	茎枝 (Caulis)	<i>Dendrobium moniliforme</i>	セッコク
麻黄	1180	茎枝 (Caulis)	<i>Ephedra sinica</i>	マオウ
茜草	1219	根 (Radix)	<i>Rubia akane</i>	アカネ
地風	1241	根皮 (Cortex)	<i>Schizophragma integrifolium</i>	イワガラミ科
甘松香	1261	根茎 (Rhizoma)	<i>Nardostachys chinensis</i>	カンショウ
地黄 (和)	1265	根茎 (Rhizoma)	<i>Rehmannia glutinosa</i>	アカヤジオウ
柏仁	1289	種子 (Semen)	<i>Platycladus orientalis</i>	コノデガシワ
天仙子	1290	種子 (Semen)	<i>Hyoscyamus niger</i>	ヒヨス
馬蘭子	1301	種子 (Semen)	<i>Iris pallasii</i>	ネジアヤメ
茺蔚子	1308	種子 (Semen)	<i>Leonurus japonicus</i>	メハジキ
大石韋	1336	全草 (Herba)	<i>Lepisorus asterolepis</i>	ウラボシ科
洋艸	1391	全草 (Herba)	※※	※※※
浮萍	1471	全草 (Herba)	<i>Spirodela polyrrhiza</i>	ウキクサ
巨麥	1488	地上部 (Herba)	<i>Dianthus superbus</i>	エゾカワラナデシコ
縮砂薔	1490	果実 (Fructus)	<i>Amomum villosum</i>	カンボジアカルダモン
大芥子	1491	種子 (Semen)	<i>Papaver somniferum</i>	ケシ
金石斛	1501	茎枝 (Caulis)	<i>Flickingeria comata</i>	セッコク
陳皮	1520	果皮 (Pericarpium)	<i>Citrus reticulata</i>	マンダリンオレンジ
吉立	1523	果実 (Fructus)	<i>Tribulus terrestris</i>	ハマビシ
雷丸	1584	菌核	<i>Polyporus mylittae</i>	雷丸菌
石花	1659	全草 (Herba) ?	<i>Sedum multicaule</i>	マンネングサ属
實衆	1661	果実 (Fructus)	※※	※※※
銀枝	1664	※	※※	※※※
山奈	1692	根茎 (Rhizoma)	<i>Kaempferia galanga</i>	バンウコン
參砂	1737	根 (Radix)	※※	※※※
木賊	1803	全草 (Herba)	<i>Equisetum hiemale</i>	トクサ科



東方文化事業“上海自然科学研究所”の漢方生薬研究

天冬 (門冬 天門冬)	1809	根 (Radix)	<i>Asparagus cochinchinensis</i>	クサスギカズラ
生附子	1860	根 (Radix)	<i>Aconitum carnichaeli</i>	カラトリカブト
半夏	1877	塊茎 (Tuber)	<i>Pinellia ternata</i>	カラスビシャク
沙参	1880	根 (Radix)	<i>Adenophora stricta</i>	マルバノニンジン
荆三稜	1884	塊茎 (Tuber)	<i>Sparganium stoloniferum</i>	ミクリ
海桐皮	1895	樹皮 (Cortex)	<i>Erythrina indica</i>	デイゴ
明天麻	2030	根茎 (Rhizoma)	<i>Gastrodia elata</i>	オニノヤガラ
紅花	2057	花部 (Flos, Spica)	<i>Carthamus tinctorius</i>	ベニバナ
蜘蛛花	2071	全草 (Herba)	※※	※※※
蘭陽花 (闊洋花)	2072	※	※※	※※※
胡黄連	2107	根茎 (Rhizoma)	<i>Picrorhiza scrophulariiflora</i>	ゴマノハグサ科
金英子	2124	果実 (Fructus)	※※	※※※
金銀花	2126	花部 (Flos, Spica)	<i>Lonicera japonica</i>	スイカズラ
呈茄	2132	※	※※	※※※
丁香	2139	花部 (Flos, Spica)	<i>Syzygium aromaticum</i>	チョウジ
獨角蓮	2157	根茎 (Rhizoma)	<i>Typhonium giganteum</i>	サトイモ科
廣木香	2192	根 (Radix)	<i>Saussurea lappa</i>	キク科
貝母	2195	鱗茎 (Bulbus)	<i>Fritillaria verticillat</i> var. <i>thunbergii</i>	アミガサユリ
浙貝	2197	鱗茎 (Bulbus)	<i>Fritillaria verticillat</i> var. <i>thunbergii</i>	アミガサユリ
蒙花	2225	花部 (Flos, Spica)	<i>Buddleja officinalis</i>	フジウツギ属
一支高	2250	茎枝 (Caulis)	※※	※※※
青木香	2270	根 (Radix)	<i>Aristolochia debilis</i>	ウマノスズクサ
鹿耳艸	2316	全草 (Herba)	<i>Laggera alata</i>	ヒレギク属
大腹皮	2361	果皮 (Pericarpium)	<i>Areca catechu</i>	ピンロウ
海金砂	2364	シダ植物の孢子	<i>Lygodium japonicum</i>	カニクサ
槐角	2366	果実 (Fructus)	<i>Styphnolobium japonicum</i>	エンジュ
牙皂	2375	果実 (Fructus)	<i>Gleditsia sinensis</i>	サイカチ
白豆蔻	2377	果実 (Fructus)	<i>Elettaria cardamomum</i>	ショウブク
蓼實	2378	※	※※	※※※
紅蔻	2379	果実 (Fructus)	<i>Alpinia galanga</i>	ナンキョウソウ
砂米	2467	※	※※	※※※
常山	2509	根 (Radix)	<i>Dichroa febrifuga</i>	ジョウザン

皂刺	2523	莖枝 (Caulis)	※※	※※※
小石韋	2531	地上部 (Herba)	<i>Pyrrosia lingua</i>	ヒトツバ
實衆	2572	果実 (Fructus)	※※	松柏類?
神曲	2586	加工産物	※※	※※※
白鮮皮	2602	根皮 (Cortex)	<i>Dictamnus dasycarpus</i>	ハクセン
澤漆	2604	全草 (Herba)	<i>Euphorbia helioscopia</i>	トウダイグサ
川烏	2614	根 (Radix)	<i>Aconitum carmichaeli</i>	キンポウゲ科
麥門冬 (寸冬)	2625	根 (Radix)	<i>Ophiopogon japonicus</i>	ジャノヒゲ
麥門冬	2641	根 (Radix)	<i>Ophiopogon japonicus</i>	ジャノヒゲ
玄參	2657	根 (Radix)	<i>Scrophularia buergeriana</i>	ゴマノハグサ
三奈	2666	根茎 (Rhizoma)	<i>Kaempferia galanga</i>	バンウコン
芍薬 赤白	2696	根 (Radix)	<i>Paeonia lactiflora</i>	シャクヤク
夜交藤	2756	莖枝 (Caulis)	<i>Polygonum multiflorum</i>	ツルドクダミ
漏蘆	2758	根 (Radix)	<i>Rhaponticum uniflorum</i>	オオバナアザミ
山藥	2778	根茎 (Rhizoma)	<i>Dioscorea japonica</i>	ヤマノイモ
野芍薬	2781	根 (Radix)	<i>Paeonia obovata</i>	ベニバナヤマ シャクヤク
臭椿皮	2808	樹皮 (Cortex)	<i>Ailanthus altissima</i>	ニワウルシ
拳参	2810	根 (Radix)	<i>Polygonum bistorta</i>	イブキトラノオ
紫花地丁	2813	地上部 (Herba)	<i>Viola yedoensis</i>	ノジスミレ
黄柏	2823	樹皮 (Cortex)	<i>Phellodendron amurense</i>	キハダ
苦参	2831	根 (Radix)	<i>Sophora flavescens</i>	クララ
黒糸	2860	原形を削ったもの	※※	※※※
連鬚	2873	花部 (Flos, Spica)	<i>Nelumbo nucifera</i>	ハス
馬蘭花	2878	花部 (Flos, Spica)	<i>Tetrapanax papyrius?</i>	カミヤツデ
厚朴花	2879	花部 (Flos, Spica)	<i>Magnolia officinalis</i>	カラホオ
柏葉	2893	葉 (Folium)	<i>Biota orientalis</i>	コノテガシワ
知母	2894	根茎 (Rhizoma)	<i>Anemarrhena asphodeloides</i>	ハナスゲ
玫瑰花	2897	花部 (Flos, Spica)	<i>Rosa rugosa var. plena</i>	マイカイ
金牛艸	2935	全草 (Herba)	<i>Polygala telephioides</i>	ヒメハギ
益母草	2964	地上部 (Herba)	<i>Leonurus heterophyllus</i>	メハジキ
透骨草	2967	全草 (Herba)	<i>Phryma leptostachya</i>	ハエドクソウ
地錦	2969	全草 (Herba)	<i>Parthenocissus tricuspidata</i>	ブドウ科
劉寄奴	2993	全草 (Herba)	<i>Siphonostegia chinensis</i>	ヒキヨモギ
馬齒莧	3083	地上部 (Herba)	<i>Portulaca oleracea</i>	スベリヒユ

東方文化事業“上海自然科学研究所”の漢方生薬研究

橘葉	3086	葉 (Folium)	<i>Citrus reticulata</i>	マンダリンオレンジ
大青葉	3113	葉 (Folium)	<i>Isatis indigotica</i>	タイセイ
桑白皮	3121	根皮 (Cortex)	<i>Morus alba</i>	マグワ
紫丁皮	3126	樹皮 (Cortex)	<i>Leptodermis pulchella</i>	シチョウゲ
榛皮	3128	樹皮 (Cortex)	<i>Fraxinus japonica</i>	トネリコ
紫降香	3138	根 (Radix)	<i>Dalbergia odorifera</i>	マメ科
海風藤	3172	茎枝 (Caulis)	<i>Piper kadsura</i>	ノフウトウカズラ
青風藤	3173	根 (Radix)	<i>Sinomenium acutum</i>	オオツブラフジ
金銀花	3252	花部 (Flos, Spica)	<i>Lonicera japonica</i>	スイカズラ
小草	3273	地上部 (Herba)	※※	※※※
元胡	3313	塊茎 (Tuber)	<i>Corydalis turtschaninovi</i>	キケマン属
川貝母	3320	鱗茎 (Bulbus)	<i>Fritillaria cirrhosa</i>	ユリ科
白頭翁	3323	花部 (Flos, Spica)	<i>Pulsatilla chinensis</i>	ヒロハオキナグサ
半夏	3329	塊茎 (Tuber)	<i>Pinellia ternata</i>	カラスビシャク
薑黄	3331	根茎 (Rhizoma)	<i>Curcuma aromatica</i>	キョウオウ
莪茂	3334	根茎 (Rhizoma)	<i>Curcuma zedoaria</i>	ガジュツ
桂皮	3385	樹皮 (Cortex)	<i>Cinnamomum cassia</i>	クスノキ科
石榴根皮	3474	根皮 (Cortex)	<i>Punica granatum</i>	ザクロ
肉蓯蓉	3485	茎枝 (Caulis)	<i>Cistanche deserticola</i>	ホンオニク
牡丹皮	3488	根皮 (Cortex)	<i>Paeonia suffruticosa</i>	ボタン
杜仲	3505	根皮 (Cortex)	<i>Eucommia ulmoides</i>	トチュウ
桂枝	3536	茎枝 (Caulis)	<i>Cinnamomum cassia</i>	クスノキ科
木通	3549	茎枝 (Caulis)	<i>Akebia quinata</i>	アケビ
豨薟 豨艸	3555	地上部 (Herba)	<i>Siegesbeckia pubescens</i>	メナモミ
没食子	3567	ブナ科植物の葉の虫癭	<i>Cynips tinctoria</i> の産卵に起因	※※※
虫薬	3607	根皮 (Cortex)	※※	※※※
鈎藤	3610	茎枝 (Caulis)	<i>Uncaria rhynchophylla</i>	カギカズラ
荷梗	3619	葉 (Folium)、花柄	<i>Nelumbo nucifera</i>	ハス
薤白	3772	鱗茎 (Bulbus)	<i>Allium macrostemon</i>	チョウセンノビル
烏薬	3778	根 (Radix)	<i>Lindera strychnifolia</i>	テンダイウヤク
仙人掌	3830	※	※※	サボテン科
商陸	3849	根 (Radix)	<i>Phytolacca acinosa</i>	ヤマゴボウ科

白薇	3861	根 (Radix)	<i>Ampelopsis japonica</i>	カガミグサ
蘆根	3870	根 (Radix)	<i>Phragmites</i> sp.	ヨシ属
仙毛	3899	根 (Radix) ?	※※	※※※
蘇梗	3908	茎枝 (Caulis)	<i>Perilla frutescens</i> var. <i>crispa</i>	シソ
五味子	3909	果実 (Fructus)	<i>Schisandra chinensis</i>	チョウセンゴミシ
白大豆	3911	種子 (Semen)	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲンマメ
排草	3930	根 (Radix) 茎枝 (Caulis)	<i>Agastache rugosa</i>	カワミドリ
火香	3938	全草 (Herba)	※※	※※※
荊芥	3952	花部 (Flos, Spica)	<i>Schizonepeta tenuifolig</i>	ケイガイ
荊芥	3955	茎枝 (Caulis)	<i>Schizonepeta tenuifolig</i>	ケイガイ
芥稅	3960	花部 (Flos, Spica)	<i>Schizonepeta tenuifolig</i>	ケイガイ
急性子	3987	種子 (Semen)	<i>Impatiens balsamina</i>	ホウセンカ
篇蓄	3993	地上部 (Herba)	<i>Polygonum aviculare</i>	ミチヤナギ
甘遂	3999	根 (Radix)	<i>Euphorbia kansui</i>	トウダイグサ属
射干	4014	根茎 (Rhizoma)	<i>Belamcanda chinesis</i>	ヒオウギ
ダツラ種子	4036	種子 (Semen)	<i>Datura</i> sp.	チョウセンアサガオ属
柿蒂	4094	果実 (Fructus)	<i>Diospyros kaki</i>	カキ
五味子	4095	果実 (Fructus)	<i>Schisandra chinensis</i>	チョウセンゴミシ
胡麻	4166	種子 (Semen)	<i>Sesamum indicum</i>	ゴマ
韭菜子	4169	種子 (Semen)	<i>Allium tuberosum</i>	ニラ
桃仁	4175	種子 (Semen)	<i>Prunus persica</i>	モモ
胡桃仁	4182	種子 (Semen)	<i>Juglans</i> sp.	クルミ属
白丑	4189	種子 (Semen)	<i>Ipomoea nil</i>	アサガオ
郁李仁	4193	種子 (Semen)	<i>Prunus japonica</i>	ニワウメ
草薺	4221	果実 (Fructus)	<i>Alpinia katsumadai</i>	ソウズク
茵陳	4226	茎枝 (Caulis) 葉 (Folium)	<i>Artemisia capillaris</i>	カワラヨモギ
太楓子	4229	種子 (Semen)	<i>Hydnocarpus anthelmintica</i>	ダイフウシノキ
車前子	4233	種子 (Semen)	<i>Plantago asiatica</i>	オオバコ
故紙	4241	種子 (Semen)	<i>Psoralea corylifolia</i>	オランダビユ
豆豉	4264	ダイズの種子の加工品	※※	※※※
蘇子 紫蘇	4265	果実 (Fructus)	<i>Perilla frutescens</i>	シソ
番打麻	4305	※	※※	※※

薰陸	4311	樹脂	<i>Boswellia carterii</i>	乳香樹
冬葵子	4344	種子 (Semen)	<i>Malva verticillata</i>	フユアオイ
川穀	4354	種子 (Semen)	<i>Coix lacryma-jobi</i>	ハトムギ
兔糸子	4398	種子 (Semen)	<i>Cuscuta japonica</i>	ネナシカズラ
蒿本	4425	根 (Radix)	<i>Ligusticum sinense</i>	セリ科
藁本	4428	根茎 (Rhizoma)	<i>Ligusticum sinense</i>	コウホン
苦梗	4430	根 (Radix)	<i>Platycodon grandiflorus</i>	キキョウ
毛朮	4523	根茎 (Rhizoma)	<i>Curcuma zedoaria</i>	ガジュツ
藕節	4632	根茎 (Rhizoma)	<i>Nelumbo nucifera</i>	ハス
小薊	4667	全草 (Herba)	<i>Breca segetum</i>	アレチアザミ
不食艸	4670	全草 (Herba)	<i>Centipeda minima</i>	トキンソウ
紫荊皮	4703	茎枝 (Caulis)	<i>Cercis chinensis</i>	ハナズオウ
唐玄参	4715	根 (Radix)	<i>Scrophularia ningpoensis</i>	ゴマノハグサ
茅姑	4718	茎枝 (Caulis)	<i>Iphigenia indica</i>	サイハイラン
鱧白草	4719	全草 (Herba)	<i>Potentilla chinensis</i>	カワラサイコ
毛根	4725	茎枝 (Caulis)	<i>Imperata cylindrica var. major</i>	チガヤ
使君子	4737	果実 (Fructus)	<i>Quisqualis indica</i>	シクンシ
委仁	4738	※	<i>Trichosanthes kirilowii</i>	シナカラスウリ
泡黄	4756	果実 (Fructus)	<i>Rubus pectinellus</i>	コバノフユイチゴ
皂肥	4798	種子 (Semen)	<i>Gleditsia sinensis</i>	サイカチ
卷柏	4807	全草 (Herba)	<i>Selaginella tamariscina</i>	イワヒバ
(真)大戟	4837	根茎 (Rhizoma)	<i>Euphorbia lasiocaula</i>	タカトウダイ
簕實	4847	果実 (Fructus)	<i>Rosa multiflora</i>	ノイバラ
苦楝皮 (白皮)	4850	樹皮 (Cortex)	<i>Melia azedarach</i>	タイワンセンダン
木腰子	4857	種子 (Semen)	<i>Entada phaseoloides</i>	モダマ
蕃杏葉	4870	葉 (Folium)	<i>Tetragonia tetragonioides</i>	ツルナ
卑藨	4872	根 (Radix)	<i>Discorea hypoglauca</i>	ヤマノイモ科
毛狗	4873	根茎 (Rhizoma)	<i>Cibotium barometz</i>	タカワラビ
枝核	4874	果実 (Fructus)	<i>Litchi chinensis</i>	ライチ
芸苔	4876	種子 (Semen)	<i>Brassica rapa</i>	カブ
草菓	4878	果実 (Fructus)	<i>Amomum tsao-ko</i>	ソウカ
紫梢花	4897	乾燥群体	<i>Spongilla fragilla fragilis</i>	ヨワイカイメン (淡水海綿)
黄精	4922	根茎 (Rhizoma)	<i>Polygonatum falcatum</i>	ナルコユリ
全蠍	4933	全体	<i>Buthus martensi</i>	キョクトウサソリ

巴豆	4953	種子 (Semen)	<i>Croton tiglium</i>	ハズ
羌活	4979	根茎 (Rhizoma)	<i>Notopterygium incisum</i>	キョウカツ
香瓜子	4986	種子 (Semen)	<i>Helianthus annuus</i>	ヒマワリ
唐縮砂	5080	種子 (Semen)	<i>Amomum xanthioides</i>	シユクシャ
王瓜	5098	果皮 (Pericarpium)	<i>Trichosanthes kirilowi</i>	カラスウリ
桔梗 (皮付)	5124	根 (Radix)	<i>Platycodon grandiflorum</i>	キキョウ
石菖蒲	5125	根茎 (Rhizoma)	<i>Acorus gramineus</i>	セキショウ
芫花	5206	花部 (Flos, Spica)	<i>Daphne genkwa</i>	フジモドキ
訶子	5306	果実 (Fructus)	<i>Terminalia chebula</i>	ミロバラン
龍眼肉	5322	果実 (Fructus)	<i>Euphoria longan</i>	リュウガン
太棗	5326	果実 (Fructus)	<i>Zizyphus jujuba</i> var. <i>inermis</i>	ナツメ
苦丁香	5334	果実 (Fructus)	<i>Cucumis melo</i>	マクワウリ
木瓜	5338	果実 (Fructus)	<i>Chaenomeles lagenaria</i>	カリン
合歡	5339	果実 (Fructus)	※※	※※※
母丁香	5340	果実 (Fructus)	<i>Syzygium aromaticum</i>	チョウジ
大麻子	5349	種子 (Semen)	<i>Ricinus communis</i>	トウゴマ
檳榔子	5356	種子 (Semen)	<i>Areca catechu</i>	ビンロウヤシ
榿實	5361	種子 (Semen)	<i>Torreya grandis</i>	シナガヤ
唐訶子	5394	果実 (Fructus)	<i>Terminalia chebula</i>	ミロバラン
兒茶	5434	加工産物	<i>Acacia catechu</i>	アセンヤクノキ
石蓮子	5461	果実 (Fructus)	<i>Nelumbinis nucifera</i>	ハス
佛手	5479	果皮 (Pericarpium)	<i>Citrus medica</i> var. <i>sarcodactylis</i>	ブッシュカン
金菓蘭	5480	果実 (Fructus)	<i>Olea europaea</i>	カンラン
王不留行	5505	種子 (Semen)	<i>Vaccaria segetalis</i>	ドウカンソウ
茅朮	5509	根茎 (Rhizoma)	<i>Atractylodes chinensis</i>	ホソバオケラ
草烏	5511	茎枝 (Caulis)	<i>Aconitium kusnezoffi</i>	エゾトリカブト
前胡	5544	根 (Radix)	<i>Peucedanum praeruptorum</i>	ノダケ
塩姜	5546	根茎 (Rhizoma)	<i>Zingiber officinale</i>	ショウガ
路路通	5622	果実 (Fructus)	<i>Liquidambar formosana</i>	フウ
黄精子	5673	種子 (Semen)	<i>Polygonatum officinale</i>	アマドコロ
桑椹子	5702	果実 (Fructus)	<i>Morus alba</i>	マグワ
八角 (大茴香)	5704	果実 (Fructus)	<i>Illicium verum</i>	トウシキミ
柘榴	5706	果実 (Fructus)	<i>Punica granatum</i>	ザクロ
蓮子	5710	種子 (Semen)	<i>Nelumbinis nucifera</i>	ハス

東方文化事業“上海自然科学研究所”の漢方生薬研究

大力子	5766	果実 (Fructus)	<i>Arctium lappa</i>	ゴボウ
桂子	5787	果実 (Fructus)	<i>Cinnamomum cassia</i>	ニッケイ
丁香	5834	花部 (Flos, Spica)	<i>Syzygium aromaticum</i>	チョウジノキ
天仙藤	5856	茎枝 (Caulis)	<i>Aristolochia debilis</i>	ウマノズクサ
山楂	5880	果実 (Fructus)	<i>Crataegus cuneata</i>	サンザシ
光明子	5891	種子 (Semen)	<i>Ocimum basilicum</i>	メボウキ (バジル)
乳香	5922	樹脂	<i>Boswellia carterii</i>	ニュウコウジュ
血竭 (麒麟血)	5930	樹脂	<i>Daemonorops draco</i>	リュウケツジュ
枳椇子	5961	種子 (Semen)	<i>Hovenia dulcis</i>	ゲンボナシ
松香	5962	樹脂	<i>Pinus massoniana</i>	タイワンアカマツ
蛇床子	5965	果実 (Fructus)	<i>Cnidium monnier</i>	オカゼリ
伏神 (方茯、 皮茯)	5987	菌核	<i>Poria cocos</i>	マツホド菌
連翹	6002	果実 (Fructus)	<i>Forsythia suspensa</i>	レンギョウ
小茴香	6014	果実 (Fructus)	<i>Foeniculum vulgare</i>	ウイキョウ
山枝子	6018	果実 (Fructus)	<i>Gardenia jasminoides</i>	クチナシ
唐山梔子	6024	果実 (Fructus)	<i>Gardenia jasminoides</i>	クチナシ
山茱萸	6027	果実 (Fructus)	<i>Cornus officinalis</i>	サンシュユ
女貞子	6034	果実 (Fructus)	<i>Ligustrum lucidum</i>	トウネズミモチ
蛇床子	6046	種子 (Semen)	<i>Cnidium monnieri</i>	オカゼリ
土茯苓	6103	根茎 (Rhizoma)	<i>Smilax glabra</i>	サルトリイバラ
唐白朮	6217	根茎 (Rhizoma)	<i>Atractylodes macrocephala</i>	オオバナオケラ
菖蒲	6295	根茎 (Rhizoma)	<i>Acorus gramineu</i>	セキショウ
唐白芷	6334	根 (Radix)	<i>Angelica dahurica</i>	ヨロイグサ
淫羊藿	6352	地上部 (Herba)	<i>Epimedium pubescens</i>	イカリソウ
紫草根 (紫根)	6459	根 (Radix)	<i>Lithospermum erythrorhizon</i>	ムラサキ
麻黄根	6469	根 (Radix)	<i>Ephedra sinica</i>	マオウ
ダツラ	6485	※	<i>Datura metel</i>	チョウセンアサガオ
香附子	6521	根茎 (Rhizoma)	<i>Cyperus rotundus</i>	ハマスゲ
王瓜子	なし	種子 (Semen)	<i>Trichosanthes cucumeroides</i>	カラスウリ
蕪荑	なし	果実 (Fructus)	<i>Ulmus macrocarpa</i>	チョウセンニレ
生地	なし	根 (Radix)	<i>Rehmannia glutinosa</i>	アカヤジオウ

猪苓	なし	菌核	<i>Polyporus umbellatus</i>	チョレイマイタケ
地骨皮	なし	根皮 (Cortex)	<i>Lycium chinense</i> or <i>L. barbarum</i>	クコ
川斷	なし	※	<i>Dipsacus asperoides</i>	マツムシソウ科
巴戴天	なし	根 (Radix)	<i>Morinda officinalis</i>	ハゲキテン
羌串	なし	根 (Radix)	<i>Notopterygium incisum</i>	ウド
石榴果皮	なし	果皮 (Pericarpium)	<i>Punica granatum</i>	ザクロ
鎖陽	なし	茎枝 (Caulis)	<i>Cynomorium songaricum</i>	オシャグジタケ
地風	なし	※	<i>Illicium difengpi</i>	※※※
昆布	なし	葉状体	<i>Laminaria japonica</i>	マコンブ
玉竹	なし	根茎 (Rhizoma)	<i>Polygonatum odoratum</i>	アマドコロ
天門冬	なし	根 (Radix)	<i>Asparagus cochinchinensis</i>	クサスギカズラ
苦楝皮	なし	樹皮 (Cortex)	<i>Melia azedarach</i>	センダン
萱草	なし	根 (Radix)	<i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>longituba</i>	ノカンゾウ
白前	なし	全草 (Herba)	<i>Cynachum stauntonii</i>	ガガイモ科
藿香	なし	地上部 (Herba)	<i>Pogostemon cablin</i>	カッコウ
玉金	なし	根茎 (Rhizoma)	<i>Curcuma zedoaria</i>	ガジュツ



# Research on KAMPO medicine in Shanghai Natural Science Laboratories—including the Manchurian Natural Medicinal Specimen of Kyoto Pharmaceutical University collected by NAKAO Manzo in 1913

by Ken ITO

Kyoto Pharmaceutical University, which was founded in 1884, is the second oldest private Japanese pharmaceutical university. The university owns a considerable number of historical and natural medicinal specimens, including the Manchurian herbal medicinal specimens, which were collected in 1913 by an authority on pharmacognosy, NAKAO Manzo, the head of the Chinese medicine department in Shanghai Natural Science Laboratories. The crude drugs (n=305) were identified by their Latin names and added to the list. This study shows that these traditional herbal drug specimens may provide a big clue in verifying their origin and furnishing the market situation of Manchurian natural medicine before the World War II and Proletarian culture revolution of China.

Keywords: Chinese traditional medicine, Manchuria, Shanghai Natural Science Laboratories, NAKAO Manzo, Kyoto Pharmaceutical University.